【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第４区分
【発行日】平成19年5月31日(2007.5.31)

【公開番号】特開2004-315973(P2004-315973A)
【公開日】平成16年11月11日(2004.11.11)
【年通号数】公開・登録公報2004-044
【出願番号】特願2004-117502(P2004-117502)
【国際特許分類】
Ｃ２２Ｃ　30/00　(2006.01)
Ｃ２２Ｃ　19/05　(2006.01)
Ｃ２２Ｆ　1/10　(2006.01)
Ｆ０１Ｄ　5/28　(2006.01)
Ｆ０２Ｃ　7/00　(2006.01)
Ｃ２２Ｆ　1/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ２２Ｃ　30/00
Ｃ２２Ｃ　19/05　Ｃ
Ｃ２２Ｆ　1/10　Ｈ
Ｆ０１Ｄ　5/28
Ｆ０２Ｃ　7/00　Ｃ
Ｆ０２Ｃ　7/00　Ｄ
Ｃ２２Ｆ　1/00　６０２
Ｃ２２Ｆ　1/00　６０４
Ｃ２２Ｆ　1/00　６１１
Ｃ２２Ｆ　1/00　６８３
Ｃ２２Ｆ　1/00　６９１Ｂ
Ｃ２２Ｆ　1/00　６９１Ｃ
Ｃ２２Ｆ　1/00　６９２

【手続補正書】
【提出日】平成19年4月11日(2007.4.11)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
微細（Ti_xZr_{1-x}）（C_yN_{1-y}）析出物の均一分散体を溶融状態における当該合金中での（Ti_xZr_{1-x}）（C_yN_{1-y}）析出物の限界溶解度に近い量で含むニッケル－鉄－クロム合金であって、当該合金が、重量基準で、３２～３８％の鉄、２２～２８％のクロム、０．１０～０．６０％のチタン、０．０５～０．３０％のジルコニウム、０．０５～０．３０％の炭素、０．０５～０．３０％の窒素、０．０５～０．５％のアルミニウム、０．９９％以下のモリブデン、０．０１％以下のホウ素、１％以下のケイ素、１％以下のマンガン、及び残部のニッケルと不可避不純物からなり、当該合金の炭素：窒素重量比が１：２以上１：１未満である、ニッケル－鉄－クロム合金。
【請求項２】
当該合金が０．２０重量％以上のチタンを含む、請求項１記載のニッケル－鉄－クロム合金。

【請求項３】
当該合金がニオブ、タンタル及びバナジウムを含まない、請求項１記載のニッケル－鉄－クロム合金。
【請求項４】
当該合金が、炭化クロムを含まなくするのに十分なチタン、ジルコニウム及び／又はアルミニウムを含む、請求項１記載のニッケル－鉄－クロム合金。
【請求項５】
当該合金がＡＳＴＭ　Ｎｏ．４又はそれよりも微細な平均結晶粒度を有する、請求項１記載のニッケル－鉄－クロム合金。
【請求項６】
当該合金が、重量基準で、３３～３７％の鉄、２３～２７％のクロム、０．２５～０．３５％のチタン、０．０５～０．１０％のジルコニウム、０．０５～０．１５％の炭素、０．１０～０．２０％の窒素、０．１～０．２％のアルミニウム、０．６０～０．９０％のモリブデン、０．００６％以下のホウ素、０．８０％以下のケイ素、０．８０％以下のマンガン、及び残部のニッケルと不可避不純物からなる、請求項１記載のニッケル－鉄－クロム合金。
【請求項７】
重量基準で、３２～３８％の鉄、２２～２８％のクロム、０．１０～０．６０％のチタン、０．０５～０．３０％のジルコニウム、０．０５～０．３０％の炭素、０．０５～０．３０％の窒素、０．０５～０．５％のアルミニウム、０．９９％以下のモリブデン、０．０１％以下のホウ素、１％以下のケイ素、１％以下のマンガン、及び残部のニッケルと不可避不純物からなるニッケル－鉄－クロム合金の処理方法であって、
生成（Ti_xZr_{1-x}）（C_yN_{1-y}）析出物が当該合金の融液中でのその限界溶解度に近くなるのに十分な量のチタン、ジルコニウム、炭素及び窒素を含む該合金の融液を調製する段階、
微細（Ti_xZr_{1-x}）（C_yN_{1-y}）析出物の分散体を含む該合金のインゴットを形成する段階、
１１７５～１２３０℃の温度で該合金を加工熱処理する段階、
該物品を溶体化熱処理する段階、及び
微細（Ti_xZr_{1-x}）（C_yN_{1-y}）析出物の分散体を含む物品を急冷する段階
を含んでなる方法。